

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38259
事業名	働く世代への健康増進アプローチ研究費					
評価担当課	所属名	保)保健所 健康企画課				
	課長名	關 靖子	担当者名	布施 絢乃	電話番号	011-622-5151
施策名	主	地域で共生する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	働く世代に効果的なアプローチ手法を検証し、確立する。			
		長期	働く世代に効果的なアプローチ手法を検証し、確立することにより、企業の自主的な活動を促進する。			
	取組内容	健康さっぽろ21(第二次)の中間評価を踏まえ、健康課題の多い働く世代を対象に、健康意識の向上と健康行動の継続に効果的なアプローチ手法の確立に向けて、効果検証を行う。 効果検証では、アプリ等のICTを活用したインセンティブ付与を伴う健康増進プログラムを試行実施し、健康意識別の健康行動の継続要因等を分析する。 効果的な介入方法を踏まえ内容の修正、試行実施を継続し、データを蓄積する。検証結果を公表し、将来的には、企業の自主的な従業員の健康増進に係る取組を推進する。				
実施結果	令和2年11月から健康増進プログラムのプレ運用を開始し、令和3年度より本格的運用を開始。令和3年度末時点で18社379名が参加している。アプリ活用による健康行動への効果的な介入方法の検証として、アンケートやキャンペーンなどを実施。令和4年度末の最終評価に向けて効果検証・分析等を進めているところ。					
事業実施における工夫点	アプリの通知機能を活用し、キャンペーンの周知や健康行動に応じたインセンティブ付与により参加者の健康づくりへの意欲が維持されるよう試みた。					
対象者	中小企業等で働く従業員	開始	平成31年度	終了	令和4年度	
関連法令・条例・要綱等	健康増進法					
他都市の状況	筑波大学、(株)ウェルネスリサーチ等 インセンティブ付与によるアプローチのである健幸ポイントプロジェクト等により、一定程度効果があることが実証されている。					

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	17,901	14,000	10,321	15,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	2.0	2.0	2.0	2.0	
人件費	14,400	14,400	14,400	14,400	
計(事業費+人件費)	32,301	28,400	24,721	29,400	
事業費の内訳	令和3年度決算	○働く世代への健康増進アプローチ研究事業運営業務委託(9880千円) ○プロジェクト会議 謝礼(301千円) ○その他 パソコン等(140千円)			
	令和4年度予算	○働く世代への健康増進アプローチ研究事業運営業務委託(12682千円) ○プロジェクト会議等 謝礼(1297千円) ○ポイント原資(653千円) ○その他 パソコン等(368千円)			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	健康行動の継続に効果的なアプローチ手法の確立			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	—	—	—	確立	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	参加者は各自アプリを用いて歩数計測や食事管理、健康情報の習得などを行っている。令和4年度の最終評価に向けて、参加者の健康行動が促進されるようなキャンペーン等を計画・実施した。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	参加者のうち、対照群については事業規模を踏まえ、分析可能なデータ取得方法に変更した。介入群については、途中脱落者も見込んだ分析可能参加者数の維持に引き続き努めていく必要がある。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	委託業者と研究機関としての大学が参加するプロジェクト会議が定期的に行われ、事業の進捗状況の確認や必要なアプリ改修、キャンペーン・アンケート内容などの共有・検討により、効果的な取組みとなるよう努めた。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	アプリ利用者の健康行動取組状況や歩数の年間推移を分析し、インセンティブ付与割合の調整やアプリ改修をすることで利用者のニーズに応えた。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	参加者の特性を踏まえ、得られたデータの評価や分析が正しく行われるよう、手法の検討は慎重に行う必要がある。				
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	対照群のデータ取得方法を変更した。介入群の声を踏まえアプリの改修を行った。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	対象者の健康行動促進のためのキャンペーン、健康に関する動画配信や企業への研修など手法を工夫して取組、適宜プロジェクト会議において進捗を踏まえた検討ができた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善    ○ 現状維持    ○ 休止・廃止 令和4年度は事業最終年度であるため、必要なデータの収集のほか、健康増進プログラムの効果検証から健康行動への効果的手法を見出す。			
	予算	● 拡充    ○ 現状維持    ○ 縮小    ○ その他 分析や報告が効果的になされるよう、適切な予算措置を行う。		見直し効果額	0 千円